

〔参考Ⅲ〕 高大連携実施校の卒業生からのヒアリングの結果

日 時 平成20年12月8日（月）18：00～19：30

出席者【委員】石井委員、岡崎委員、君塚委員、武田委員、長束委員、堀越委員、
阿部委員、小川委員、小倉委員、福原委員、村越委員、亀田委員

【事務局】生涯学習課、教育政策課、県立学校改革推進課、指導課職員

【大学生】千葉大学在學生2名

千葉工業大学在學生2名

筑波大学在學生1名

東京情報大学在學生1名

二松学舎大学在學生1名

<全員への質問に対して>

○高大連携に参加してよかったか。

（よかったと思う → 7/7人）

○高校の後輩に参加した方がいいと薦められるか。

（薦められる → 7/7人）

○大学に入ってみてイメージと実際との違いはあったか。

（イメージと違った → 0/7人）

（大体イメージ通りだった → 4/7人）

○高大連携講座はAO入試でプラスになると思って受けたのか。

（プラスになればと思って受けた 3/7人（男子3人））

○今通っている大学のその学部を選んだのは、高大連携が決め手となったのか。

（決め手となった → 2/7人）

○自分から大学へ行くほど積極的ではなく、高校へ出張講義にきてくれたから行った。

（同意見 → 4/7人）

○模擬授業の時間について

（高校で90分の授業を受けた → 6/7人）

（そのうちそれを長いと思った人 → 6/6人）

<高大連携の実施内容>

- 「進路の日」があってその日は訪問したい大学を選んで訪問することができた。1, 2年生が訪問する大学はアポイントは要らないが、3年次にそれ以外の大学を訪問したい場合は、自分でアポイントを取って訪問した。
- 情報コースがあり、教科情報に力を入れている高校だったので、その最後の課題として大学で言う卒業論文のようなものがあった。大学生や先生にアドバイスをもらった。
- 座学が中心であったが、内容が難しく、授業時間が大幅に長いので集中力が続かない。後輩に聞くと今はパソコンを使ったり、何か作ったりという授業も受けているので集中力も続くだろうし、達成感が自分の時よりあると思う。

<参加してみてよかったと感じている点>

- 大学の環境・空間に1年または2年早く慣れることができた。大学の先生にも覚えてもらえ、いろいろな仕事をさせてもらった。
- 自分の高校では、高大連携に参加する人数が少なかったので特別感のようなものがあった。
- 大学のクラフト工作室を使わせてもらった。ものづくり大会に参加するために高校にはない道具を使わせてもらったのがよかった。おかげで母校は2年連続全国2位になることができた。
- 高校のパソコンは使うのに制約があるが、大学はパソコンがいたるところにあり、自由に使えるのがよかった。(受講期間中はIDと仮学生証を発行してくれるので、大学生の使用できる施設は自由に使用できた。
- 大学の先生は、高校生に分かるように合わせてくれた。自分に興味のない授業はあまり面白くなかったが、全部受けると単位がもらえるので、そのためにがんばった。

<期待はずれだった点>

- SPPの企画で、ある大学の講座は、自分のDNAを抽出して実験を行うなど3, 4日間生物だけに集中して取り組んだが、他の大学の講座はもともと抽出してあるメダカのDNAを使って、詳しい説明もあまりなく分かりにくかった。生物と科学を2日間で学ぶコースであったからだと思う。もう少しじっくり学べたらよかったと思う。
- 講義を受けた大学の先生が、その日の講義に高校生が高大連携で授業を受けているということを知らなかったということを知って、大学の中では高大連携が広まってい

ないことに少しショックを感じた。

- 特に学部をよく分からないまま受けるかどうかを決めなければならなかった。結局経済の授業を聞いたが、内容も大学の講義の何回目かの授業の1コマだったので、よく分からなかった。
- 高校で中国語の勉強を2年間やった。もし語学の授業があったらその大学のレベルが分かったと思う。高校の時に受けられなかったのは残念だった。

<大学の正規授業か高校生用のプログラムか>

- (単位認定される科目等履修(大学の正規授業)の授業と高校生用のプログラムを受けるのではどちらが魅力的かという問いに対して、)入ろうと思っていた学科の授業だったので受けた。大学の空間で実際の授業を感じられたのがすごくよかった。今後も高大連携はそういう形がいいと思う。

<講義の回数・時間の長さについて>

- 回数を減らした方がいい。いろいろな授業を2,3回ずつ受けた方がよいと感じた。内容も難しかったし、後半少しだらけてきてしまった。
- 15回でいいと思う。15回出てよかったと思える授業は15回で初めて結果が出るような授業だと思う。30回大学へ行ってみて、大学に行くということが普通の感覚になった。大学生の知り合いもでき、なじむことができた。なじむのには時間がかかるのでこれくらい日数がいいと思う。
- (15回受講して単位をくれるなら、大学へ出向いて受講するかとの問いに対し、)土日は部活動をやりたかったので、15回となると多分行かなかったと思う。
- 興味があれば行くだろうが、15回通うきつさがあるので、自分は余程の内容でないと思わないだろう。
- 興味のある内容だと90分でもぎりぎり我慢できた。45分で区切りを入れてくれた先生は助かった。

<高校での単位認定について>

- 単位というよりもAO入試で有利になると思ってがんばった。
- 単位は関係なかった。内容が大事。

- その大学に行けるかも分からないのに、単位と言われてもあまり興味がない。

<高校と大学で同じ授業を受けることについて>

- 選択必修で高校の時に受けた講座を取った。当時は難しく感じた内容だったが、2回目だったので意外と分かった。成績も上げられ、友達にも教えることができた。自分としてはいい結果しか残っていない。
- (科目等履修の場合は申請すれば大学の単位となるが、それでも) 高校の時の自分との成長の度合いが測れるから、受けると思う。

<高大連携と入試>

- 受験前は教育学部とは決めていたがその先は漠然としていた。しかし連携の講義を受けてははっきりと目指すものが見つかり、AO入試で大学に合格した。また、面接官が講義を受けた先生だったので、少し安心して受けられた。
- 推薦入試の面接の際、特別授業を受けたことを言ったらその話題になったので答えやすかった。

<高大連携の経験が残したもの>

- 高校では生物系の講座によく出ていたが、大学では理学部の地学科へ進んだのは、高校の課題研究で河川についての水質調査をやって、もともと水文について研究したかったからである。千葉大には水文学があるので地学系に進んだ。戸惑いはなかった。
- 卒論は情報教育がテーマである。大学でのゼミ活動をしている時に情報モラルのなさなどに気づいたのがきっかけであり、そういう意味では経験が活きていると思う。
- 今も意欲的にものづくり大会に参加している。また、物事に諦めずに取り組む姿勢が持てるようになった。

<後輩に高大連携の経験を伝える機会、伝えたいこと>

- 私の母校では、年1回大学生に来てもらって話す機会を設けている。時間も人数にも制約があり、そんなに深くは伝えられないと思うので、交流会のような機会も持てるといい。
- 私の母校では大学生が15,6人来てくれて、それぞれ分かれて1時間くらい話を聞

く機会があった。その後も別室に残ってくれていたのも、他の大学の様子や入試、大学生活、学部選択のことなど個別に聞きたいことを聞いた。

- 高校では情報コースに入ったから情報の勉強をしたが、大学に入ったら単位のとり方も全部自分の選択となる。また、先生達に顔を覚えてもらったり、仕事を手伝ってりするのも自分から働きかけないとそうはならない。高校とは圧倒的に積極性が違うことを大学で実感している。
- 高大連携は勉強だけでなく、大学生活を知るための交流も持てると思う。
高校生は大学での勉強の不安もあると思うが、大学生活への不安もあると思うのでそれを少しでも解消できたらいいと思う。
- 1年の時にSPP、2年でインターンシップ、3年で模擬授業、大学見学等いろいろやったが、どれが一番いいということはなかった。いろいろ経験してみて、自分は理系ではないことを再確認できた。大学の雰囲気を知ってみたいかった。3年では大学を知りたいと思った。各学年でいろいろ経験するのがいいのではないだろうか。